



ひよし
日吉ダム 洪水に対し防災操作を実施
ほづばし
保津橋地点のはん濫危険水位超過を回避

淀川水系桂川の水資源機構日吉ダム（南丹市日吉町）流域では、台風 24 号の影響により、9 月 29 日 4 時から 10 月 1 日 8 時までの総雨量が 122mm（ダム流域平均雨量）を記録しました。

この降雨により、ダムへの最大流入量は、毎秒 382 立方メートルとなりました。

この洪水に対して、日吉ダムは防災操作を実施し、最大流入時に約 62%（毎秒 235 立方メートル）の水をダム貯水池に貯留して、ダム下流の河川水位の低減に努めました。

今回の防災操作により、日吉ダムが無い場合と比べ、保津橋地点（亀岡市保津町下中島地先）の河川水位を約 0.43 メートル低減し、はん濫危険水位（4.00m）の超過を回避したものと想定されます。

※防災操作：大雨による出水に備えて、貯水池の空容量を確保するための操作及び、ダムに流れ込む水の一部をダムに一時的に貯め込んで、ダムから下流に流す量を減らし、下流の川の水位を低減させる操作。

※今回の発表は速報値であり、今後の調査により数値等が変わることがあります。

平成 30 年 10 月 4 日

独立行政法人 水資源機構 日吉ダム管理所

台風 24 号に伴う洪水に対し操作を実施

淀川水系桂川の日吉ダム（南丹市日吉町）流域では、台風 24 号の影響により、9 月 30 日 18 時から 19 時までの 1 時間の雨量が 18.4 mm を記録し、降り始めの 9 月 29 日 4 時から 10 月 1 日 8 時までの総雨量が 122mm に達しました。

この降雨により、ダム流入量が増加し、30 日 22 時 20 分には洪水量（毎秒 150 立方メートル）に達しました。

1 日 0 時 30 分には、最大流入量が毎秒 382 立方メートルに達しましたが、流入量の約 62%（毎秒約 235 立方メートル）を低減させ、同時刻におけるダム流下量を毎秒 147 立方メートルとしました。

操作の概要

	流域平均 総雨量	ダムへの流入量が 最大となった時刻	同時刻における ダムへの流入量	同時刻における ダム流下量	同時刻における ダム流下低減
日吉 ダム	122 mm	平成 30 年 10 月 1 日 0 時 30 分	毎秒 382m ³	毎秒 147m ³	毎秒 235m ³ (約 62%)

洪水に対する操作では、ダム下流の保津橋地点（^{ほづばし} 亀岡市保津町下中島地^{かめおかしほづちょうしもなかじま}先）の最高水位は 3.68m となりました。もし、ダムが無かった場合には、同じ保津橋地点の水位は 4.11m と推定されます。

保津橋地点の水位低減効果

保津橋地点の河川水位が 最高水位となった時刻	同時刻における 保津橋地点の河川水位	ダムがなかった場合の同 地点の最高水位(推定)	水位低減効果 (推定)
平成 30 年 10 月 1 日 1 時 00 分	3.68m	4.11m	約 0.43m

日吉ダムでは、今後もダムの効果が最大限に発現できるよう努めて参ります。

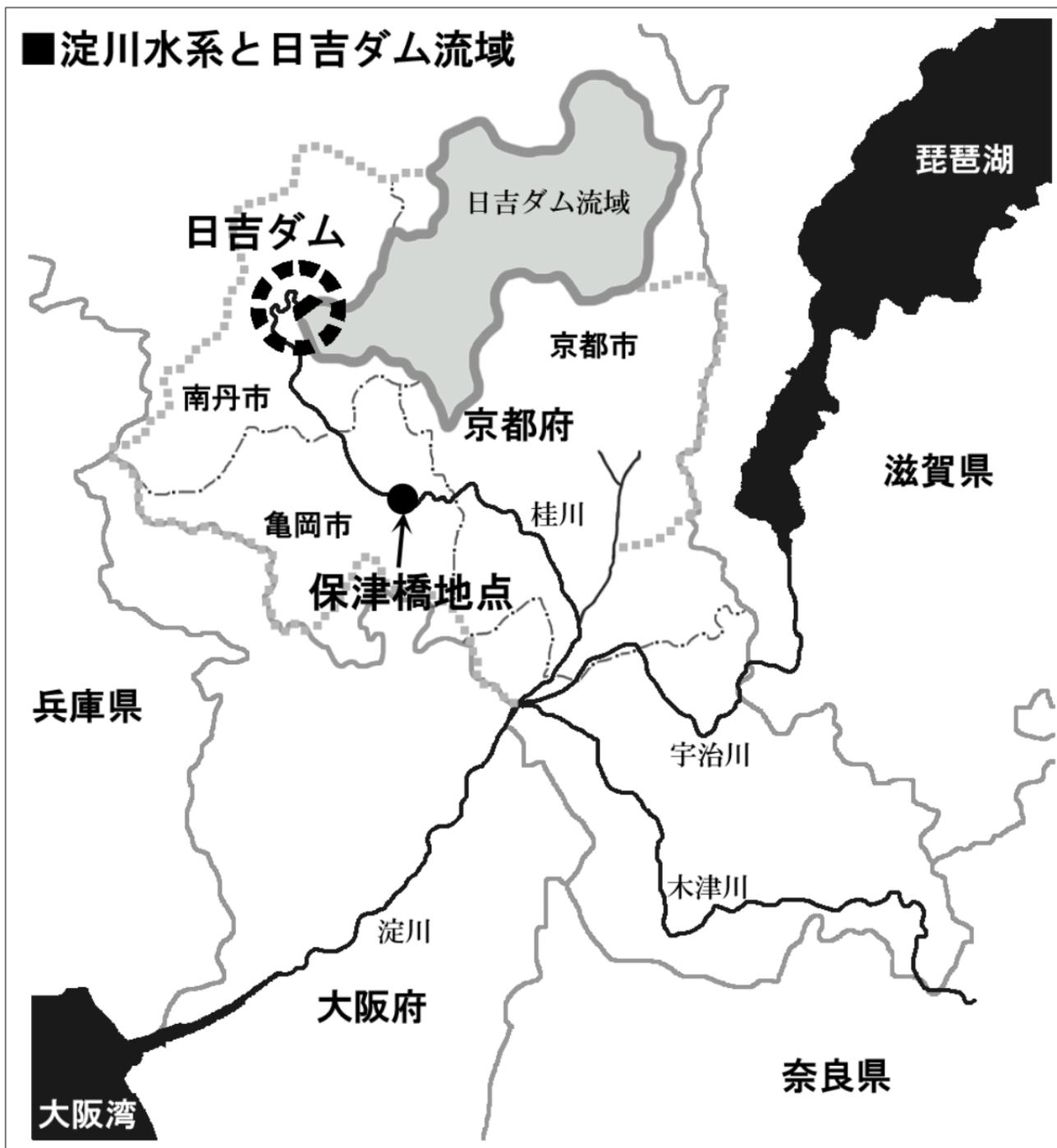
管理開始（平成 10 年 4 月）以降の最大流入量大きい主な出水と今回の記録

順位	出水名	流域平均 総雨量 (mm)	最大 流入量 (m ³ /s)	最大流入時 流下量 (m ³ /s)	最大流入時 貯留量 (m ³ /s)	最大放流量 (m ³ /s)
1	平成25年 9月 台風18号	345	1,694	148	1,546	504
2	平成30年 8月 台風20号	204	1,333	72	1,261	149
3	平成26年 8月 前線	215	1,292	43	1,249	150
4	平成30年 7月 梅雨前線	492	1,258	149	1,109	907
21	平成30年 9月 台風24号	122	382	147	235	150

※ 管理開始(平成10年4月)以降の出水で、最大流入量大きい方から4番目までと今回を記載しています。

※ 数値等は速報値であり、今後の精査により変わることがあります。

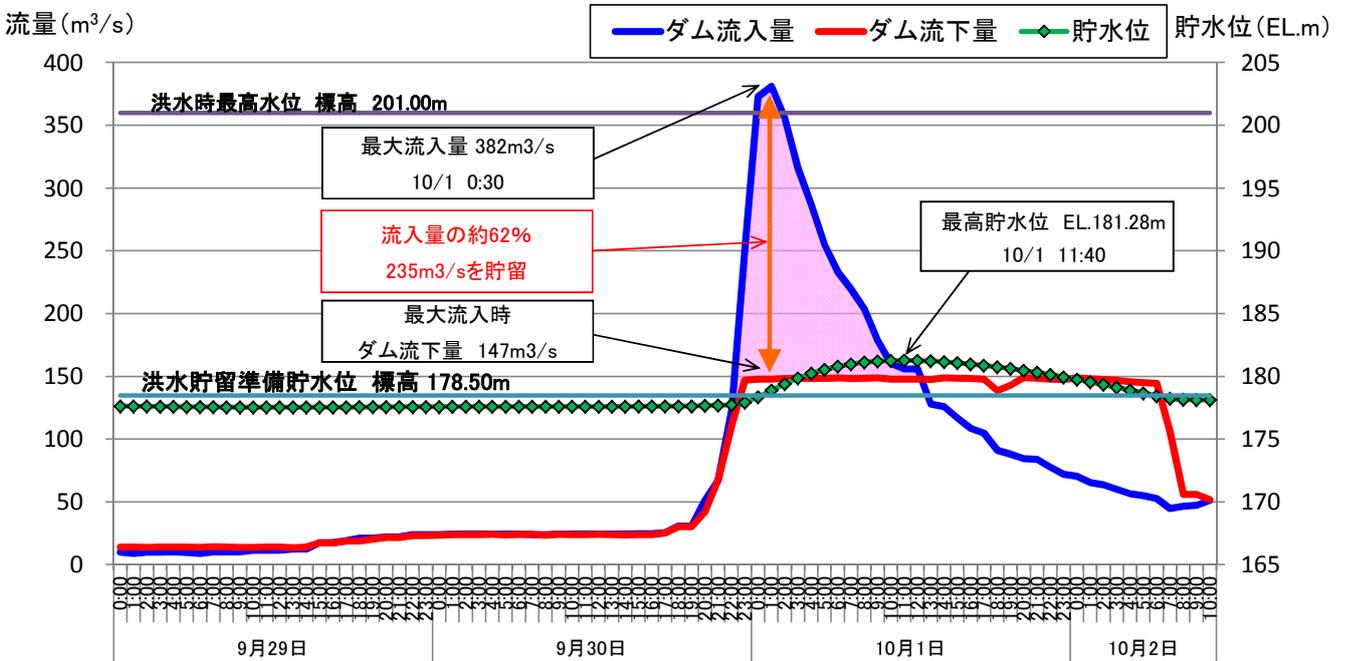
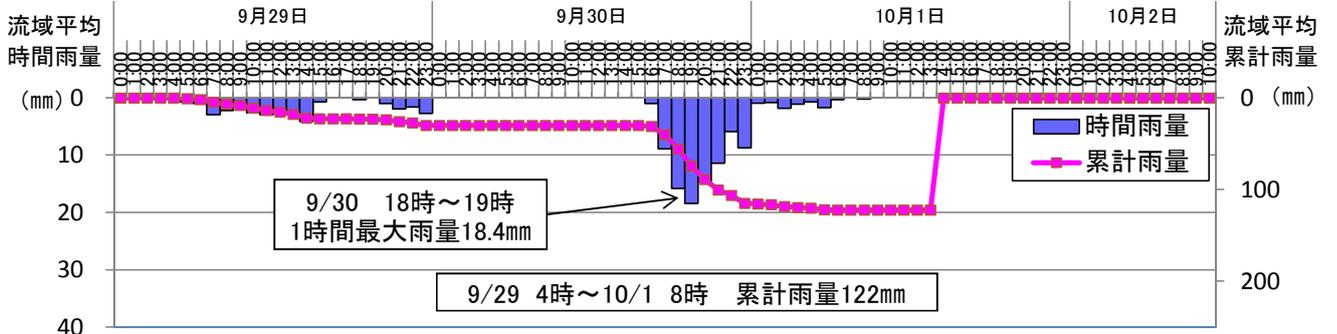
位置図



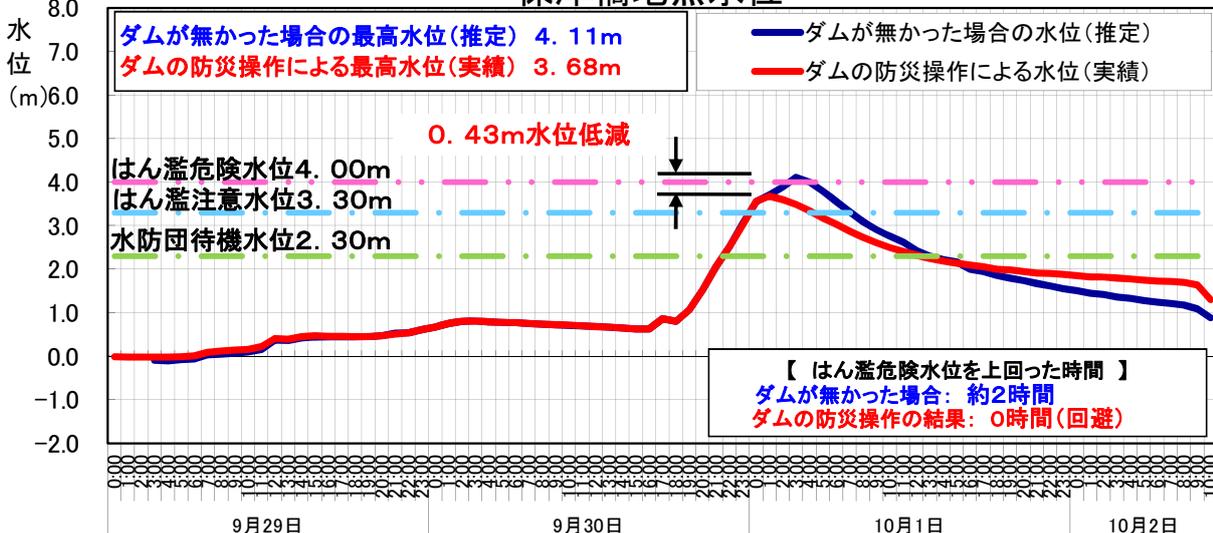
台風24号の降雨に対する日吉ダム防災操作について

・日吉ダム最大流入時に約62%を貯留、ダム下流の河川水位を低減

日吉ダム防災操作図



保津橋地点水位

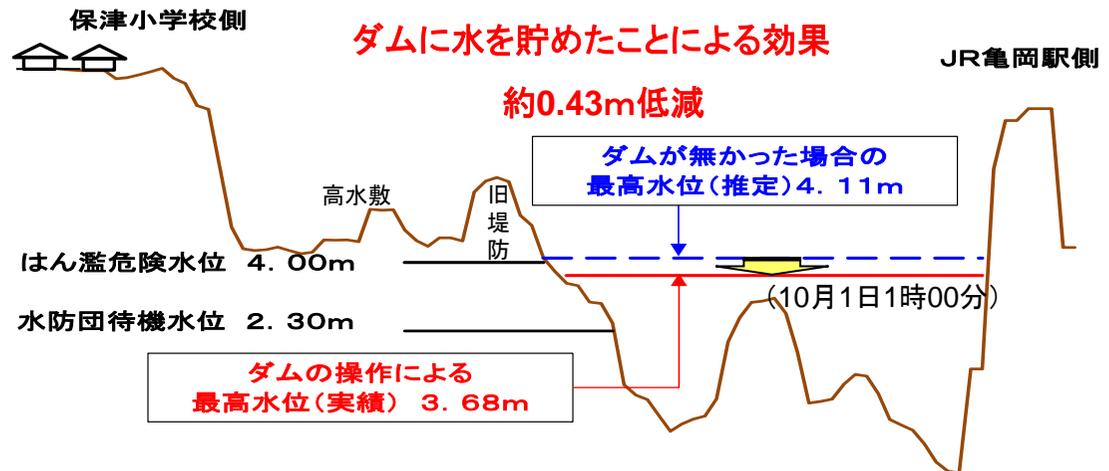


日吉ダム 台風24号に伴う洪水に対し操作を実施

- 淀川水系桂川の日吉ダム流域では、台風24号の影響により、最大の時間雨量は9月30日18時から19時にかけて18.4mm、降り始めからの総雨量は9月29日4時から10月1日8時までに122mmを観測しました。
- この降雨により、ダムへの最大流入量は毎秒382立方メートルを記録しましたが、防災操作により、最大流入時に約62%（毎秒約235立方メートル）の水をダムに貯留して、ダム下流の河川水位の低減に努めました。
- この操作で、京セラドーム大阪※約4杯分（493万立方メートル）の水をダムに貯め込むことにより、ダム下流の保津橋地点（亀岡市保津町下中島地先）の最高水位は3.68mとなりました。もし、ダムが無かった場合には、同じ保津橋地点の水位は4.11mで、約0.43mの水位低減があったと推定されます。（※京セラドーム大阪の容量を120万立方メートルとして算出）



保津橋地点（保津川下り乗船場付近）



※ 今回の発表は速報値であり、今後の精査により数値等が変更することがあります。